RPSJ NETWORK

Railway Preservation Society of Japan　　日本鉄道保存協会 会報

2006 MARCH 第 10 号

平成 17 年度 日本鉄道保存協会総会の開催

平成17年度の日本鉄道保存協会の第15回総会が10月7日・8日の2日間、北海道旅客鉄道株式会社を幹事に、苗穂工場・小樽で開催された。全国から歴史的鉄道車両を保存･活用している会員（団体、企業、個人）やオブザーバら総勢約60名が参加した。

苗穂工場・鉄道記念館を視察

ＪＲ北海道の鉄道車両の修理、検査等をおこなっている苗穂工場を特別に視察させていただいた。明治時代のレンガ造りの工場建築や車両の修理状況を横目に、鉄道記念館へ。国鉄時代から受け継がれている歴史的車両の部品、設備の機器をはじめ、ディーゼル特急車両の一部、さらには写真や図面等の貴重な歴史的資料が整然と展示され、実に見ごたえがあった。

盛り上がった意見交換会

会場を朝里川温泉に移し、総会・意見交換会を行なった。意見交換会では、まず基調報告として交通博物館長・菅建彦氏が「これからの鉄道保存」と題し、欧米の博物館や保存鉄道の事例を紹介しながら我が国の将来にわたる保存のあり方を示された。ＪＲ北海道からは担当の岡島公紀氏が C11 形２両の復元と営業運転にかかる状況と問題点や課題を報告し、これを受け産業考古学会の堤一郎氏が我が国の実情に合った歴史的車両や駅舎をはじめとする施設、構造物の保存・活用の方策について提案をした。その後、会場と一体となったやりとりが約 90 分、活発に行なわれ、地元北海道の加盟団体からも部品の調達や技術伝承の難しさ、さらには観光資源としての活用、次世代に引き継ぐためのノウハウなどが話された。単に鉄道関連の歴史的資産にこだわらず、周辺の観光資源とのリンクによる啓発活動も大切だと実感した。

ＳＬニセコ号に乗車

翌 10 月８日はＪＲ北海道の自慢のＳＬ急行ニセコ号に参加者が乗車し、小樽から倶知安までＣ11207 号が牽引する昔ながらの客車に揺られ、汽車の旅を楽しんだ。途中、ＪＲ北海道の担当の方から復活のエピソードや維持管理の苦労、やっと市民権を得て人気が出てきたことなど、興味深い説明があった。

帰りがけに、参加者有志で小樽交通記念館へ。館内には重要文化財の手宮機関庫をはじめ、歴史的車両が約 30 両ずらりと展示されている。近年、入館者の減少に悩んでおり、活性化に取り組んでいる話などを伺った。

２ 日間ではあったが、盛りだくさんのメニューで充実した会であった。ＪＲ北海道をはじめ関係の皆さまありがとうございました。

（米山　淳一）

意見交換会報告

日本鉄道保存協会平成17年度総会は10月7日(金)から8日(土)にかけて、北海道小樽市の朝里川温泉において開催された。50名を越える参加者が集い、大変盛況であった。総会に先立つＪＲ北海道苗穂工場見学会と総会の内容については、他の報告者によりなされるはずなので、本稿では意見交換会を中心に報告する。

総会は15時30分頃から始まった。いつものように挨拶、出席者紹介、平成16年度事業報告及び収支報告、平成17年度事業計画(案)及び収支予算(案)の審議の順に終了したが、開催地団体のＪＲ北海道からは、横井洋裕運輸部長が挨拶をされた。

続いて意見交換会に移った。米山淳一事務局長の導入に続き、本来ならば基調講演、開催地団体の取り組み事例、問題提起、そしてパネルディスカッションの順に進められる予定が、視聴覚機器の突然の不具合から、筆者による問題提起「鉄道を保存するということ」が最初になった。この内容は、1)鉄道を保存することとは何か、2)鉄道保存の持つ様々な側面、3)鉄道の何をどのように保存するのか、4)鉄道保存の将来性は、の四つであり、鉄道保存を行うことの基本的な考え方を再度提示したものである。続いて、交通博物館館長菅建彦氏による基調講演「これからの鉄道保存：欧米の事例に学ぶ」が行われた。菅館長は最近視察された欧米諸国での豊富な事例をスクリーンにあげ、鉄道保存に関する最近の動向と視察から得られた教訓とを見事に纏められた。最後にＪＲ北海道の岡島公紀氏から、昭和63年から平成7年まで続けられたＣ62形3号機の動態運転、現在のＣ11形蒸気機関車の動態運転化とそれに伴う技術／技能者の確保、技能継承（例えば整備用工具や治工具取扱法、機関車整備作業内容の記録・保存など）の重要さが事例と共に簡潔に述べられた。

小休止後、パネルディスカッションに移った。テーマは「鉄道保存の将来を考える」である。基調講演をされた菅 建彦氏にコメンテータを依頼し、米山淳一事務局長と筆者とがコーディネータ役となり、フロアの参加者に意見を求めた。参加者からは次のような意見があった。

1)近年は市民参加型の鉄道保存が見られるが、将来的にはこれが主流になる可能性もある。

2)今や大井川鉄道に蒸気機関車列車が走ることはあたりまえであり、地元4町からの補助金化も検討されている。

3)これまで動態保存運転可能な蒸気機関車は全国に16両あったが、今や10両に減った。将来的に見て、蒸気機関車の動態保存運転は継続できるのだろうか。

4)鉄道保存で大切なことは、感動体験ではないのか。現在の子供たちは実体験を通して学んだり経験したりする場が少なく、その結果として感動する機会にも恵まれない。

ここで、北海道の参加団体に現状を問うたところ、次のような報告があった。

5)丸瀬布町は市町村合併により遠軽町になるため、「丸瀬布町さよなら記念列車」を企画・運転したところ盛況で、最終列車の汽笛吹鳴も行った。いこいの森の運営も経費がかなりかかるため、この問題をどのように改善すればよいかが将来的な大きな課題である。

6)三笠市では、鉄道の村を後背地の幌内炭鉱などの炭鉱関連産業遺産と有機的にジョイントさせ、地域総合的な保存・活用ができないかを検討している。

7)小樽交通記念館では、入館者数の減少と展示車

両の補修に苦労している。冬季は閉館し補修作業を行わざるを得ないのが現状で、入館者対策として空き缶アートフェステイバルと環境対策とを組み合わせた展示をメインホールで行っている。

再びフロアの参加者に意見を求めた。

8)旧信越本線の横川から丸山変電所の間の下り線に線路を復活させ、トロッコ列車を運転している。なお旧上り線は遊歩道とし、66.7／1000 急勾配区間を歩いて体験してもらう形をとっている。こうした急勾配区間も、体験型産業遺産として重要である。

9)日本ではリピーターを如何につかむかというマネジメントが希薄なのではないか。

10)四国は 4 県連合で蒸気機関車列車運転ができないかを検討中である。観光産業の一環として考えている。

11)加悦鉄道 2 号蒸気機関車は 6 月に重要文化財として官報に告示されたが、これを記念して平成 18 年 1 月に宮津市で記念シンポジウムを開催する。機関車ばかりではなく、ちりめん街道とともに地域の総合的な産業遺産としての活用を考えている。丹後地域でも蒸気機関車の動態保存運転ができないかと、目下検討を重ねている。

フロアの参加者からの意見が一通り出たところで、コメンテータの菅 建彦氏から、鉄道保存は時間が味方である、鉄道愛好者だけを対象にしていては事業面では決してうまくいかない、公的な補助金制度についても十分に調査し、申請可能な場合はそれに向けた努力をする、道路を保存鉄道として利用する場合の使用認可は比較的容易だが、鉄道事業法ではかなり難しい、保存鉄道に関わる様々な課題や問題点についてセミナーを開催するなど、常に前向きの姿勢がほしい、といった意見や提言を頂いた。最後に、顧問の小池 滋先生から総括がなされ、意見交換会では積極的な意見は良く出るが、消極的な意見は出にくい。次回は、「ぼやき」でも良いからぜひそうした悩みを聞かせてほしいし、それが他の団体にも必ず共感を与えることになる、という貴重なコメントを頂いた。

今回の意見交換会では結論を出すことは難しかったが、関係者はともに多種多様の課題を抱えながら、鉄道保存という文化的事業を継続する共通認識を改めて持ったのではなかろうか。次回の平成 18 年度総会では、こうした共通の認識から発生する課題別の意見交換会と活発な議論が持たれることを期待している。

鉄道保存に関わる将来的な基本的コンセプトとして筆者は、1)歴史性のさらなる認識と鉄道保存活動の広域化、教育面への普及、2)地域に残る地域文化財との有機的な連携、3)移動型野外博物館のように、鉄道を利用して社会を見せるための努力、4)鉄道保存活動への市民の関心と力の結集、5)蒸気機関車のみならず、他の車両も含めた総合的な鉄道保存への展開、などを考えている。総会に参加された各位のご提案やご意見をお願いしたい。　　堤　一郎（産業考古学会(JIAS)理事）

平成 17 年度総会日程

◄

１０月７日（金）

13：10	JR 北海道苗穂工場見学
15：15	総会開始・あいさつ 新加盟の承認について 平成 16 年度事業報告及び収支の報告 平成 17 年度事業計画（案） 収支予算（案）の審議等
16：15	「鉄道を保存するということ」 堤　一郎（産業考古学会 理事） 基調講演「これからの鉄道保存」 菅　建彦（(財) 交通文化振興財団 理事長） 取り組み発表 岡島　公紀（JR 北海道 運輸部運用車両課）
17：30	パネルディスカッション 「鉄道保存の将来を考える」

加盟団体からのお知らせ

★　遠軽町　★

―丸瀬布町から遠軽町へ―

「森林鉄道蒸気機関車雨宮 21 号」

「平成の大合併」による市町村合併で平成 17 年 10 月 1 日、「新・遠軽町(遠軽、丸瀬布、生田原、白滝)」が誕生し、各地域において記念行事や開庁式が執り行われ、新たな門出を祝いました。

新・遠軽町では 10 月 1 日午前 8 時 30 分、旧・遠軽町役場から移行した町役場本庁前で最初の開庁式が行われ、職務執行者を務めた枝松泰彦（旧丸瀬布町長）氏が「歴史や文化を尊重して新たな地域づくりを後世に引継ぎ、『合併して良かった』と評価されるよう日々努力していかなくてはいけない」との挨拶を通じ共通理解を図り、ついに新・遠軽町が誕生しました。

丸瀬布ではこれに先立ち、平成 17 年 9 月 30 日深夜から未明にかけ丸瀬布町上武利の「森林公園いこいの森」で「雨宮 21 号」が合併記念運行を行い、丸瀬布町としては最後、新・遠軽町としては最初の汽笛を響かせました。いつの時代も丸瀬布地域の財産として愛され多くの人々に見守られながら「雨宮 21 号」は新・遠軽町へ引き継がれました。

団体名　遠軽町
連絡先　〒099-0203　北海道紋別郡
遠軽町丸瀬布中町
丸瀬布総合支所産業課
TEL　01584-7-2211　FAX 01584-7-2128
ホームページ：http://engaru.jp/
メールアドレス：m-sangyou@engaru.jp

★　三笠市　★

世紀を駆け抜けた蒸気機関車の体験運転
―ＳＬ機関士体験クラブ―

三笠鉄道村は鉄道記念館を核とし、昭和６２年９月にオープンして以来全国から沢山の方々にご観覧いただいています。

幌内鉄道は明治１５年北海道で初めての鉄道として、幌内～小樽手宮間（91.2km）を幌内炭鉱の良質な石炭を運ぶ産業用鉄道として開通しました。

しかし、昭和６２年７月に第二次廃止対象路線としてその使命を終えましたが、一世紀にわたる北海道鉄道発祥の地に、歴史の保存と地域の再開発、子供から大人までの体験学習の場、そして市の観光都市化の核事業として建設されたものです。

開村１５周年に当る平成１４年より［もし、この蒸気機関車を自分の手で動かすことができたら］と思いを馳せる人達が沢山いるのではという発想のもとに、ＳＬ機関士体験クラブを開設しました。

実際のＳＬ体験運転に向けて、それぞれに必要な知識を習得する学科講習を受講し、当講習を終了後運転体験ができるシステムで実施しています。

＊応　募　資　格　：18 歳以上
＊学科・体験運転日：５月～１０月（4 回／月）
＊学 科 講 習 料　：１万円（1 回のみ）
＊体 験 運 転 料　：
　1 回から 9 回まで・・・・5,000 円（1 回につき）
　10 回から 29 回まで・・・4,000 円（1 回につき）
　30 回から 50 回まで・・・3,000 円（1 回につき）
　51 回以上・・・・・・・2,000 円（1 回につき）

次の方には、［三笠鉄道村］での動力車資格証（腕章）を交付します。
　10 回体験運転者［機関士見習］
　30 回体験運転者［補助機関士］
　50 回体験運転者［機　関　士］

お問合わせ先
・三笠鉄道村［ＳＬ機関士体験クラブ］係
TEL　01267-3-1123
・三笠市商工観光課　TEL　01267-2-3997

★　北海道旅客鉄道株式会社　★

―平成 18 年度ＳＬ列車運行予定―

四季折々の北海道の風景の中、ＳＬの旅をお楽しみ頂きたく、道内各線区にてＳＬによる観光列車を運行しております。

今春には C11-207 号機の中間検査を終え、また C11-171 号機についても工事を計画しております。新製・復元からの経年を重ねていることから、引き続き入念なメンテナンスを行って参ります。

平成 18 年度ＳＬ運行概要

・ＳＬ函館大沼号
　4 月末～5 月上旬、7 月中旬～8 月中旬の週末
・ＳＬすずらん号
　5 月下旬、6 月下旬の各週末
・ＳＬ富良野　美瑛号
　6 月上旬、9 月中旬の各週末
・ＳＬニセコ号
　9 月中旬～11 月上旬の週末
・ＳＬクリスマス in 小樽
　12 月中旬の週末
・ＳＬ冬の湿原号
　1 月下旬～3 月中旬

※詳細の運転日は時刻表等で御確認下さい。

C11-171 号機

北海道旅客鉄道株式会社
　鉄道事業本部　運輸部　運用車両課
060-8644
　北海道札幌市中央区北 11 条西 15 丁目
　Tel. 011 (700) 5785　FAX. 011 (700) 5786

★　株式会社小樽交通記念館　★

―平成18年度は休館につきＳＬ運行休止―

小樽市は博物館・青少年科学技術館と交通記念館を統合し、市直営の新博物館とする方針を決め計画を進めていくことになった。平成18年度は改装工事を行うため休館し、平成19年春の開館を目指していく。そのため動態保存のアイアンホース号も運休となる。

アイアンホース号は老朽化が進行して、昨年は運行に影響が出ている。６月にボイラー煙管が腐食のため７本に漏れが見つかり、管をふさいで運行した。他の煙管も腐食が進み、ボイラー性能検査が通らない可能性がある。ボイラー以外の部分も老朽化による修繕が必要とみられ、その費用は高額なため今後の動態保存については検討中である。

また、館の管理運営を行っていた株式会社小樽交通記念館は解散となり当協会を脱会することとなります。今までご支援・ご協力をいただきましたことをお礼申し上げます。

アイアンホース号の雄姿

★　真岡線ＳＬ運行協議会　★

―平成１８年度の定期運行日は１１２日―

平成１８年度の「ＳＬもおか」の定期運行日数は１１２日で、車両の検査と年末年始を除き毎週土曜日、日曜日、祝日の運行（１日１往復）を予定しています。

真岡鐵道では、Ｃ１２とＣ１１の２台のＳＬを交互に運行していますが、現在、Ｃ１２６６号機が２回目の全般検査に入り整備中であり、４月下旬には完了、復帰する予定です。また、６月中旬から７月中旬までディーゼル機関車（ＤＥ１０）の全般検査と客車３両の重要部検査を予定しており、この期間は「ＳＬもおか」も運休となります。

―もおかSL倶楽部との連携による新たなイベントへの取り組み―

「もおかＳＬ倶楽部」は、ＳＬや鉄道が大好きな個人や家族が集まり、ＳＬの清掃、イベントの際のスタッフとして、楽しみながら鉄道に係わるボランティア活動をしている組織です。２月１日現在の会員数は１６４名で、会員相互の情報交換も活発に行われるようになり、交流や親睦も深まっています。

昨年は、もおかＳＬ倶楽部と真岡鐵道、ＳＬ運行協議会が連携して、ＳＬ教室の開催やＳＬクリスマス列車のイベントに取り組みました。新しいアイディアや工夫を加え内容も充実し、イベントに参加されたお客様にたいへん好評でした。

平成１８年度も連携の仕組みを整え、誘客につながるイベントや乗車されたお客様に楽しんで頂ける事業を計画したいと考えています。

また、もおかＳＬ倶楽部の会員募集と鉄道をとおして関係団体との交流等に取り組みたいと考えています。

【平成１８年度のＳＬ運行日】

4月	1日、2日、8日、9日、15日、16日、22日、23日、29日、30日
5月	3日、4日、5日、6日、7日、13日、14日、20日、21日、27日、28日
6月	3日、4日、10日、11日
7月	15日、16日、17日、21日、22日、23日、28日、29日、30日
8月	4日、5日、6日、11日、12日、13日、18日、19日、20日、25日26日、27日
9月	2日、3日、9日、10日、16日、17日、18日、23日、24日、30日
10月	1日、7日、8日、9日、14日、15日、21日、22日、28日、29日
11月	3日、4日、5日、11日、12日、18日、19日、23日、25日、26日
12月	2日、3日、9日、10日、16日、17日、23日、24日
1月	6日、7日、8日、13日、14日、20日、21日、27日、28日
2月	3日、4日、10日、11日、12日、17日、18日、24日、25日
3月	3日、4日、10日、11日、17日、18日、21日、24日、25日、31日

2005 年夏のＳＬ教室の様子

★　東日本鉄道文化財団　★

―旧新橋停車場　明治時代の台座（チェア）を寄贈される―

2003 年 4 月 10 日に開業した「旧新橋停車場」も今年 4 年目を迎え、昨年末で延べ 26 万人を超えるお客様にご来館いただきました。

「旧新橋停車場」は、1872 年 10 月 14 日（太陽暦）に日本最初の鉄道発祥の地である汐留に開業した、鉄道ターミナル新橋停車場の駅舎の外観を、当時と同じ位置にできるだけ忠実に再現したものです。

旧新橋停車場

建物内には「鉄道歴史展示室」を設け、訪れた人が気軽に楽しめ自由に立ち寄ることができる部屋として、日本の鉄道発祥の地にふさわしい展示を行っています。

展示室１階

このたび、新潟県柏崎市の新日本石油加工株式会社旧柏崎工場の煉瓦造の建物で、建築材の一部として利用されていた「台座（チェア）＝明治初期の鉄道軌道敷設の際、双頭レールを枕木に固定する器具」1 個を同社のご厚意により弊財団にご寄贈いただきました。

同社からは、「旧新橋停車場」開業の際、双頭レールもご寄贈いただいており、紙面をお借りして改めて感謝申し上げたいと思います。

今後とも、文明開化の象徴といわれ、日本の近代化の歩みを牽引してきた鉄道にまつわる様々な事柄、そして明治期の日本近代化の窓口となった汐留やその周辺の歴史などを紹介し、日本の鉄道発祥の地を後世に伝え、より多くの来館者をお迎えできるよう、なお一層魅力的な企画展を開催して参りたいと思います。

台座（チェア）

○　第 10 回東京ステーションギャラリー企画
「昭和の鉄道写真 100 景―復興から高度成長へ―」（予定）
【2006 年 4 月 11 日（火）～7 月 17 日（月・祝）】
○　第 11 回鉄道博物館ＰＲ展「夜行列車―新橋発 2007 年鉄道博物館ゆき―」（予定）
【2006 年 8 月 1 日（火）～11 月 19 日（日）】
○　第 12 回「みんなの知らない明治の私鉄―日本鉄道、甲武鉄道、総武鉄道―」（予定）
【2006 年 12 月 5 日（火）～2007 年 3 月 25 日（日）】

住　所　〒105-0021　東京都港区東新橋 1-5-3
電　話　03-3572-1872
開館時間　11:00～18:00（入館は閉館の 15 分前まで）
入場料　無料
休館日　月曜日（但し、祝休日の場合は開館、翌日休館）、年末年始、展示替え期間中

★　東武博物館　★

—友の会見学会で秩父鉄道、真岡鐵道を訪問—

東武博物館友の会では、年 2 回の鉄道施設見学会を行っています。2005 年度は、昨年 8 月に秩父鉄道の広瀬川原車両基地を、今年 1 月に真岡鐵道を訪ね、イベント列車として走っている蒸気機関車を見学しました。秩父鉄道では整備中のＣ58363 に火を入れていただき、運転席に乗せていただいて、その暑さを体験しました。真岡鐵道では下館駅から真岡駅までC11325に乗車しました。

２箇所とも現役で活躍する蒸気機関車の活き活きとした姿と、それを支える機関士さんや整備をされている多くの方の並ならぬご苦労の様子をうかがう事ができ、非常に有意義な見学会となりました。

秩父鉄道にて

真岡鐵道にて

★　上松町　赤沢森林鉄道　★

—赤沢森林鉄道の近況—

平成18年度は、赤沢森林鉄道の運行開始20周年を迎えます。それに伴うイベントを現在検討しております。また、赤沢自然休養林も「森林セラピー基地」の候補地として現在、基地になるために奮闘しております。今年もゆったりのんびり安全に皆様をおもてなしできるよう心がけていこうと思います。

(昨年は、森林鉄道の排ガスを抑制する排煙装置が、株式会社コモテックより寄贈されました。)

２００６年、赤沢森林鉄道は、次の日程で運行されています。

☆運行期間

2006 年 4 月 29 日～11 月 5 日の土曜･日曜･祝祭日。

連日運行日　ＧＷ　４月２９日～　５月　７日
　　夏休み　７月２２日～　８月２７日
　　紅葉　１０月　７日～１１月　５日
　（夏イベントは８月５日～８月１５日まで）

☆乗車料金　（１５名以上団体は各１００円引き）

通常・紅葉期間（イベント期間を除く）
　大人：　７００円　　４歳～小学生：４００円
夏イベント期間
　（自然体験イベントの参加料となります）
　大人：１２００円　　４歳～小学生：９００円

☆運行区間

森林鉄道記念館前～丸山渡停車場までの往復 2.2㎞。

☆運行時刻

通常運行日
　始発 9:30～最終 15:30 まで 30 分毎に 1 便運行。
夏休み・イベント
　始発 9:00～最終 15:30 まで 30 分毎に 1 便運行。
紅葉シーズン
　平日:始発10:00～最終15:00まで1時間毎に1便運行。
（土・日・祝日は、通常運行日同様）

〒399－5603 長野県木曽郡上松町　駅前通り2－13
上松町役場内
TEL(0264)52－2001
FAX(0264)52－1038
http://www.town.agematsu.nagano.jp/

★　虹の郷　★

—虹の郷ロムニー鉄道に開放感あふれる オープン客車を導入しました—

このたび虹の郷では、お客様に園内の花や緑あふれる開放感をよりいっそう楽しんでいただくためにオープン客車２両を製作し、ＳＬ機関車に連結して運行する事になりました。

このオープン客車は従来使用していた客車台車をベースに新たに製造されたもので、外装は青空をイメージしたブルーを基調に、車内は落ち着いた雰囲気の茶褐色で統一され、車両両サイドにはサテンゴールドに黒のラインやロムニー鉄道のシンボルマークが入り、虹の郷オリジナルのデザインとなり、色鮮やかな英国鉄道の雰囲気をそのままに伝えます。

また、この車両は安全面も考慮され、お客様の転落防止の為の手すりやドアの閉開を係員が行うロック機構なども設けられ、車内は従来の客車に比べ足元スペースが確保されて座席高も若干高く設けられています。

オープン客車の概要

全長　7m53cm
全幅　1m22cm
全高　1m81cm
車体色　ブルーを基調に金.黒のライン及びロムニー鉄道シンボルマーク

★　大井川鐵道株式会社　★

—平成 18 年度運転案内—

ＳＬ川根路号　金谷～千頭（静岡県）

運転車両：
蒸気機関車／C108 号・C11190 号・C11227 号・C11312 号・C5644 号
C12164 号（日本ナショナルトラスト保有）
電　　車／元近鉄 16000・南海 21000・京阪 3000 他

運転期間：通年運転
※ＳＬ列車は、原則として 12 月上旬から 3 月中旬の火･水･木曜日は**運休**

備　　考：観光シーズンには最大 3 往復のＳＬ列車運転を実施する予定です。

田野口駅　駅舎（昭和６年建設）
最近では、映画・ドラマの撮影が頻繁に行なわれています。ロケの誘致による地域活性化を目的とし、田野口駅の駅舎内（待合室及び駅事務室内）を整備しました。

問合せ先：
大井川鐵道株式会社　鉄道サービスセンター
TEL. 0547-45-4112
ホームページ http://www.oigawa-railway.co.jp
大井川鐵道公式ホームページでは、車両の紹介をはじめ、各種割引乗車券、イベントの情報などをご案内しております。

★　東海旅客鉄道株式会社　★

—佐久間レールパーク展示車両修繕　今年度分終了！—

当社の飯田線中部天竜駅に隣接した「佐久間レールパーク」には常設展示車両として１６両あります。４年前までに外板修繕を終え、３年前からは車内及び屋根周りの修繕を実施し、今年度はマイネ407、キハ48036、オヤ3112、クモハ52004の４両について修繕が完了し、お客様をお迎えしています。

【マイネ40 7】外板塗装・窓枠修繕実施

修繕前

修繕後

【キハ48036】外板塗装修繕実施

修繕前

修繕後

【オヤ31 12】　車内を中心に修繕実施、特に車内見学も出来るように限界測定の機構についてはアクリル板で保護しました。

修繕前　　修繕後

【クモハ52004】　先頭部窓・側窓枠修繕実施

修繕前

修繕後

★　博物館明治村　★

—近況報告（平成１７年度）—

蒸気機関車１２号・９号

１１月と１２月にボイラー検査終了

２月末にマクラギ交換実施

３月に客車ハフ１３号の塗装

３月に１２号の弁装置・火格子の修理、更新

京都市電

毎月１回、専門業者による車輌点検実施

１２月に１号、２月末に２号の１年点検実施

今後の予定

平成１８年３月１８日から６月２５日まで春の催事「明治　探険隊」の開催中、関連イベントとして、「ＳＬバックヤード探険隊」を開催します。

３月２５日（土）

４月１５日（土）

５月１４日（日）

５月２０日（土）

６月１１日（日）

の計５回開催。

ＳＬの往復乗車と給水作業や車庫など普段は見られないＳＬ運行の裏側を、説明を加えながら分かり易く説明します。

対象は、小中学生および保護者（２名まで同伴可）小学３年生以下の方は保護者の同伴が必要。参加料はお一人５００円（入村料は別途必要）

博物館明治村
〒484-0000
愛知県犬山市内山１番地
TEL ： (0568) 67-0314
FAX ： (0568)67-0358
http://www.meijimura.com/

★　加悦ＳＬ広場　★

―「123 号機関車」重文に指定―

この度、加悦鉄道 2 号機「123 号機関車」(1873 年英国ロバート･スチーブンソン製) の重要文化財指定を記念して平成 18 年 1 月 15 日に式典を開催し、記念入場券を発券しました。

式典では 2 号機の上屋完成も併せて披露し、テープカットをおこないました。また、前日の 14 日には記念シンポジウムが加悦２号機重文指定記念シンポジウム実行委員会主催のもと開催され、保存鉄道の先進国であるイギリス鉄道の話も交え「鉄道保存のありかた」と題して小池滋先生にご講演をいただきました。また、「地域産業遺産の保存・活用と新展開に向けて」をテーマにしたパネルディスカッションではコーディネーターに堤一郎先生をお迎えし、パネラーには地元の経済界、産業界の方々にご参加いただき、活発な意見交換がなされ、盛況の内にシンポジウムは閉会となりました。

私どもはこの式典・シンポジウムを通し、文化・産業遺産である２号機関車を後世に伝えて行く使命感を再認識し、心新たに保存に取り組んで行きたいと思っております。今後とも皆様のお力添えを重ねてお願い申し上げます。

又、式典以降も枚数に限りはございますが、記念入場券の発券も行なっておりますので、皆様のご来場を心よりお待ち申し上げております。

最後に現在の活動状況ですが、主に内燃動車の外板関係の保全･補修を行なっており､並行して TCM100 モーターカー(製造会社：富士重工宇都宮工場 1961 年製)の補修・整備を行なっております。

お問合せ先：カヤ興産株式会社　管理部
ＴＥＬ 0772-42-3186
ＳＬ広場ＨＰアドレス
http://www.kyt-net.ne.jp/kayaslhiroba/

★　山口線ＳＬ運行対策協議会　★

―山口線ＳＬ運行対策協議会の活動状況について―

昨年、当協議会では３月１９日（土）から運行開始されたのに合わせ、２００５　ＳＬやまぐち号出発式を開催しました。当日は、セレモニーの他、出発後の車内において沿線銘菓詰め合わせを乗客の方全員にプレゼントしたほか、ＳＬチョロＱが当たるスピードくじなどのイベントを行いました。

また、ＳＬやまぐち号が復活運転を開始した記念日である８月１日（月）にはＳＬやまぐち号２６周年記念イベントを開催し、車内でのイベントを行いました。

平成１８年度においても、乗客の皆さんに喜んでいただけるよう、様々なイベントを実施する予定にしています。

［ＳＬチョロＱが当たって大喜び］

山口線ＳＬ運行対策協議会
(所在地)山口市滝町１－１山口県観光交流課内
（ＴＥＬ）０８３－９３３－３１７０
（ＦＡＸ）０８３－９３３－３１７９

★　(財)日本ナショナルトラスト　★

—平成 17 年度の営業実績及び平成 18 年度のトラストトレイン運転日—

平成 17 年度の営業実績は、C12 形蒸気機関車の代わりに大井川鐵道のＳＬが代走して、計８回の運転をおこない、乗客数 957 名、ボランティア参加数 90 名、車内募金 174,619 円でした。皆さまのご協力に感謝いたします。平成 18 年の運転日は 4 月 15 日、5 月 27 日、6 月 24 日、7 月 8 日、8 月 26 日、9 月 9 日、10 月 14 日、12 月 2 日（いずれも土曜日）の計 8 回を予定しています。運行時間に変更があり、下りは金谷駅発 12 時 47 分、千頭駅着 14 時 15 分で上りは千頭駅発 15 時 23 分、金谷駅着 16 時 46 着となります。C12 にはＡＴＳが搭載されていないため、しばらくは大井川鐵道のＳＬが客車３両を牽引してトラストトレインとして走ります。ＡＴＳ取り付け募金へのご支援をお願いします。

問合せ先：(財) 日本ナショナルトラスト
TEL 03-3214-2631　FAX 03-3214-2633

■トラストトレイン

「ATS 取り付け募金」にご協力をお願いします。

トラストトレインのC12 形蒸気機関車及び客車３両はいままで幾度となく修理や修復を繰り返しながら、この 18 年間維持・管理され、大井川鐵道で動態保存してまいりました。皆さまのご支援のもと走り続けてきたトラストトレインですが、国土交通省より平成 16 年度中に機関車へのＡＴＳの搭載徹底の指導があり、関係各方面と調整をおこなってまいりましたが、機材の手配や費用の目処がつかず、平成 17･18 年度はC12 形蒸気機関車の運転を見合わせなければならない状況となっています。当面は大井川鐵道の機関車が代走して客車を牽引し、トラストトレインとして運転をしますが、１日も早い復帰が待ち望まれています。ＡＴＳの取り付け費用だけでも約 700 万円が必要です。下記により「ＡＴＳ取り付け募金」を募っていますので、ぜひご協力をお願いします。

募集口数　1 口 15,000 円で 500 口を募集(何口でも)

・オリジナル募金記念カードの発行
・C12 形蒸気機関車にお名前を掲示
＊　免税証明書を発行します。

送金方法：郵便振替口座番号 00120 -2-106140

加入者名：財団法人日本ナショナルトラスト

＊郵便振替用紙の空スペースに必ず、
ＡＴＳ募金と明記下さい。

RPSJ information

★平成 18 年度総会について★

平成 18 年度総会の日程および開催地につきましては、現在調整をしております。決定次第ご連絡させていただきますので、今しばらくお待ちください。

日本鉄道保存協会　会報　第 10 号　2006 年 3 月号　編集・発行　日本鉄道保存協会事務局 財団法人日本ナショナルトラスト
〒100-0005　東京都千代田区丸の内 3-4-1　新国際ビル 923 区　　TEL 03-3214-2631　FAX 03-3214-2633